（ 1）クレーンの性能、機能を把握し、無理な運転は行わない。

（ 2）定格荷重を超える荷は絶対につらない。

（ 3）つり荷の質量目測は正確に（若しくはやや多めに）行う。

（ 4）運転の合図は、一定の合図を定め、指名された合図者のみが行う。

（ 5）荷をつったまま運転位置を離れない。

（ 6）荷の形状、寸法、質量等に応じた適切な玉掛用具と玉掛け方法をとる。

（ 7）フックは、つり荷の重心の真上に位置決めを行う。

（ 8）衝撃、荷振れ運転及び斜め吊りはしない。

（ 9）地切り後一旦停止し、玉掛け用ワイヤーロープの張り及びつり荷の安定等を確認する。

（10）つり荷の下に作業者を立ち入らせない。

（11）強風等により危険が予想されるときは作業を中止する。

（12）地盤の状況、周辺設備、関係作業者等の周囲状況の安全確認を行う。

（13）移動式クレーンは、原則としてアウトリガーを最大に張り出して作業する。

（14）架空電線に接近して作業するときは、事前に保護管を取り付ける等の感電防止措置を行う。